

理科・環境教育助成 成果報告書

第2回 期間：2004年11月～2005年10月

氏名：尾崎 煙雄

所属：千葉県立中央博物館

課題名：デジカメ顕微鏡撮影装置による校庭の昆虫・クモ写真図鑑作成

1. 課題の主旨

昆虫やクモの仲間は身近な生き物の多様性や生態系の成り立ちを直観的に理解するのに適している。一方、これらには小形の種が多く、細部を観察するのが難しいために教材化が困難である。また市販の図鑑類では、教師でも種の同定が容易ではない。そこで、子どもたちが校庭や学校のまわりで採集したものを標本化し、デジカメで撮影した写真を使って、校庭の昆虫・クモ図鑑を作成して、身近な生き物の学習教材とする。

2. 活動状況

平成16年11月から17年3月にかけて、この事業に使用するデジカメ等の機器を購入した。

平成17年4月、新学期を迎えると同時に三島小学校の児童、保護者に当事業の趣旨を説明し協力を依頼した。この後、児童、保護者の協力を得つつ春から秋にかけて活発に活動する昆虫、クモ類の標本収集に努めた。

我々、博物館研究員は毎週金曜日に三島小学校に出張し、児童、保護者と交流しつつ標本の収集と写真の撮影を行った。標本を持ち込む子どもたちの表情が生き生きしているのが印象的であった（下写真）。



平成17年9～10月にかけて、集めた標本と写真の整理を行い、57種、64点の写真を用いてデジタル図鑑を作成した。

この成果品を用いて、10月に課外授業を行った（下写真）。



自分たちの集めた標本が図鑑になったことに、児童は興奮気味であり、「もっといろいろな虫の写真を入れよう」と語り合っていた。

3. 結果

写真図鑑を作るという目標を設定し、そのことを児童や保護者にも伝えたことにより、児童と保護者の積極的な協力を得ることができました。また、標本採集者として自分の名前が記録されることは児童にとって大きな動機付けとなったようです。この作業を通して、身近な環境の中にも想像を遙かに上回る多様な生き物が生息していることに、児童のみならず保護者が気づく機会を作ることができたと考えます。

4. 今後の課題と発展

今年度で作成した『図鑑』に盛り込まれた情報は、実際の生物の多様性からみれば氷山の一角のいようなものであります。今後もこの作業を継続し、地域の生き物画像データベースへと発展させたいと考えています。幸い、このようなテーマの下、平成17年度も貴財団からの助成金をいただくことができたことに感謝します。

5. 発表論文、投稿記事及び当財団へのご意見など

ご意見というほどではありませんが、気づいたことを記します。小学生でも御社「日産」の名を知る者は多く、「日産財団から助成金をもらって作ったんだよ」というと誰もが「ふーん」と納得します。「ニッサンってなに？」と聞き返されることはありません。「日産」を冠したストレートな貴財団名は、誰にでも記憶に残りやすいようです。